

## 男子部中等科・高等科

### 「誰でも分かる古典演劇」

濱野稔子

「主体的な学び」をテーマに始まった 2015 年度の男子部学業報告会において、古典文学を現代に結びつけシナリオ化し、舞台演劇の形で発表することとなった。本番に向けて、候補作品選定、シナリオ執筆、身体訓練、発声練習、舞台稽古、演出など、異学年で集まった多才な生徒たちが意欲的に取り組み、集中し、駆け抜けた準備活動期間であった。

#### I. はじめに

今回の学びの目的は次の4点である。

1. 古典の文章をシナリオ化する
2. 演劇の稽古（身体訓練、発声練習、演出、小道具製作、音響、照明オペレーション）
3. 「古典文学」に親しむ態度を身につけ、伝統的な文化や言語表現に興味をもつために、演じるという表現活動をする。
4. それぞれの登場人物の造形を通して、古典の世界と現代の世界を結び付けて捉えられるようにする。

この目的に共感して集まったのは高等科2年が2名、中等科3年が2名、中等科2年が1名の計5名の生徒だった。初めて全員が顔を合わせたときに、特に2と3の目的に対する気持ちの強さを共有でき、始まった活動は生徒が主体となって、活発なものになっていった。

#### II. 活動記録

第1回：10月17日（土）キックオフミーティング。顔合わせ。目的の共有。

第2回：10月20日（火）図書室にて気になる古典文学を2作品ずつ選び、古典文学全集など原本と合わせて資料を借りる。

第3回：10月23日（金）どの作品にするのか、各自プレゼンをし、「平家物語」「古事記」「源氏物語」という候補が挙がる。

第4回：11月2日（月）『筑波大学附属駒場高等学校学園祭』見学。三つの演劇を鑑賞する。



第5回 11月4日（水）演目が決まる。「平家物語」那須与一、「源氏物語」光源氏と姫君との会話（夕顔 紫 藤壺 葵）、「古事記」スサノオと八俣の大蛇 それぞれ担当の生徒を決め、シナリオを執筆。

第6回：11月5日（木）シナリオ原稿執筆と手直し。滑舌練習（早口ことば）配布、各自練習。

第7回：11月6日（金）学園内ランニング、柔軟体操、発声練習、腹式呼吸、滑舌練習、記念講演にて照明や小道具の確認、舞台練習。

第8回：11月7日（土）身体訓練と舞台稽古、演出手直し。昼食後、『早稲田大学演劇博物館』見学。

第9回：11月9日（月）身体訓練、舞台稽古。衣装合わせ、台詞手直し。

第10回：11月10日（火）発声練習、舞台稽古、通し稽古。稽古終了後、小道具の製作。（和歌、酒樽、草薙の太刀）



第11回：11月11日（水）身体訓練、リハーサル、小道具の製作。（扇、大蛇、プロマイド）掲示の模造紙製作。

第12回：11月12日（木）身体訓練通し稽古。音響効果と台詞との兼ね合いを確認。小道具製作

第13回：11月13日（金）記念講堂にて2回リハーサル。小道具の搬入。模造紙を記念講堂2階に掲示。

第14回：11月14日（土）朝練習（ランニング&発声）と本番。

### Ⅲ. ふりかえり

#### <良かった点>

- ・生徒は、主体的にすすんで活動日や場所を決め、話し合いや活動を行った。また、自主的に図書室に行き、資料をあたって、演目を決めていった。
- ・選定にあたって古典に関する、様々な資料にあたり、たくさんの古典の現代語訳を楽しく読んだ。
- ・中学2年、3年、高校2年という異学年であったことが幸いとなり、お互いを尊重し、学びあう場面が多くあった。お互いの失敗をカバーしあった。それぞれの成長をそれぞれが賞賛した。舞台の主な演出、動きなども全員が一丸となって改良、改善に取り組んだ。

#### <改善点>

- ・当初、古典の原本から現代語訳をしてシナリオ化する予定であったが、発表形式を演劇にすることを早々に決定したために、はじめから現代語訳されている資料（図書室のもの、生徒個人の書籍含む）を参考にシナリオ執筆をした。執筆時間は正味二日間で、そのあとは舞台稽古に時間を割いたために、原典と異なる解釈、箇所があったが指

導者が十分な検証や改善を行う時間が無かった。

今回の反省を生かして、より良い準備をし、生徒の主体的な学びの深さを追求する学業報告会としたい。